

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1 7 弘文堂気付  
郵便振替(会費) 00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他) 00180-3-604964

比較家族史学会第四六回研究大会

日時 二〇〇四年一〇月二三日(土)・二四日(日)  
場所 京都大学吉田キャンパス 京都市左京区吉田本町

■一日目 一〇月二三日(土)

会場 文学部新館第三講義室

〇時一〇分〜一〇時二〇分 会長挨拶 鎌田 浩

【シンポジウム 歴史人口学と家族史 第一部 日本の多様性】

〇時二〇分〜一〇時三〇分 シンポジウムの趣旨 運営委員

〇時三〇分〜一〇時五十分 平井晶子(ケンブリッジ・ケル

ープ)

【東北日本の家族と人口】

一一時一五分〜一二時〇〇分 溝口常俊(名古屋大学)

【近世屋久島の複合家族と「婚間い婚」】

一二時〇〇分〜一二時五〇分 昼食 生協食堂および大学周辺

にて

会場 京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

一二時五〇分〜一三時三〇分 総会

【シンポジウム 歴史人口学と家族史 第二部 日本と世界】

一三時三〇分〜一四時四〇分

速水融(麗澤大学)・岡田あおい(帝京大学)「北部日本山村

地帯の人口と世帯——一七五〇〜一八五〇年の宗門改帳を通

じり」

コメント Antoinette Fauve-Chamoux ビレナーとS比較と

いう視点から

一四時四〇分〜一五時〇〇分 休憩

【比較家族史日仏シンポジウム】(同時通訳有)

一五時〇〇分〜一五時五〇分 Antoinette Fauve-Chamoux

(EHSS) "Vivre ou survivre? Veuvage et biens des femmes en France sous l'Ancien Régime" (寡婦と女性の福祉)

一五時五〇分〜一六時四〇分 Alain Testart (Laboratoire

d'anthropologie sociale du Collège de France, CNRS) "Dot

et prix de la fiancée : une comparaison systématique" (嫁

資と婚資)

一六時四〇分〜一七時三〇分 Gérard Delille (Ecole française

de Rome, CNRS) "Le 'système' européen de l'alliance :

circuits courts et circuits longs de réciprocité" (同盟のミス

テム)

一七時三〇分〜一八時〇〇分 日仏シンポジウム総合討論

一八時三〇分〜二〇時三〇分 懇親会 歌唱 許美京(仁済大

学校)

■二日目 一〇月二四日(日)

会場 文学部新館第三講義室

【シンポジウム 歴史人口学と家族史 第三部 世界的視野】

一〇時〇〇分〜一〇時四五分 江川ひかり(立命館大学)

「一九世紀オスマン帝国における人口と家族——西北アナトリ

ア、バルケスイル郡の事例から」

一〇時四五分〜一一時三〇分 大河原知樹(東北大学)

「中東の都市における世帯の形成と構成——二〇世紀初頭のダ

マスカスとイスタンブールの比較から」

一一時三〇分〜一二時二〇分 Eun Ki-Soo (殷棋洙 ソウル

大学) "Implementation of the Neo-Confucian Principle in

Traditional Korean Family: Focusing on Adoption and

Marriage Partner Choice"

一二時二〇分〜一三時三〇分 昼食 大学周辺にて

一三時三〇分〜一五時三〇分 総合討論

運営委員 落合恵美子(京都大学・委員長)

小島宏(国立社会保障・人口問題研究所)・八

木透(仏教大学)・若尾祐司(名古屋大学)

間合せ先 文学部社会学研究室(落合・松居)

TEL075-7532758/FAX753-

2836

<http://www.bunkyo-u.ac.jp/map.html>

参加費 一五〇〇円(院生・学生五〇〇円)

懇親会費 五〇〇円(院生・学生二〇〇円)

会場 京都大学百周年時計台記念館

レストラン「ラ・ツール」(会場・交通図別

添参照)

### ■シンポジウムの趣旨説明

今大会のシンポジウムでは「歴史人口学と家族史」をテーマに掲げた。人口学的視点は、家族を研究するうえで欠くことができない。家族は人の集まりであり、人の生き死にや一生を真正面から扱う学問が人口学なのだから。これは現代家族研究については常識であり、また国際学界においても、ケンブリッジ・グループやナール学派の名前を出すまでもなく、歴史人口学的方法は家族史研究の一大分野を形成している。

本学会ではこれまで人口学を統一テーマに掲げたことがなかったが、これは日本において歴史人口学が経済史の一分野として発達してきたことも関係している。しかし、一九九五年に始まった「ユーラシア人口・家族史プロジェクト」は、歴史人口学と家族史との融合を飛躍的に促進した。このプロジェクトは歴史人口学を共通の方法とする学際的プロジェクトであり、国内研究と並行して、スウェーデン、ベルギー、イタリア、中国、フランス、イギリス等々の研究者との国際比較研究も行ってきた。その成果が刊行されるようになったのを受けて、本学会でもプロジェクトの成果を家族史研究の視点から検討するシンポジウムを企画した。前回の大会ではすでに、本シンポジウムを先取りして、鬼頭宏氏と磯田道史氏による報告が行われた。

シンポジウムは三部構成をとる。第一部では日本の地域的多様性に焦点を当て、東北日本の特徴として明かになってきた諸点について現在ケンブリッジ・グループ研修中の平井晶子氏が論じ、西南日本の屋久島については歴史地理学の溝口常俊氏が「婚間い婚」という斬新な仮説を提示する。

「日本と世界」と題した第二部では、会津地方の人口と家族について上記プロジェクトの研究代表者速水融氏との共著論文を岡田あおい氏が報告し、これに対してピレネー地方の直系家族(ステムファミリ)を長年研究してきたフランス社会科学高等研究院のアントワネット・フオーブ・シャムウ氏が、日本の家とヨーロッパのステムファミリとの比較という観点からコメントする。第三部は世界に目を転じて、オスマン帝国の史料を用いた研究について江川ひかり氏と大河原知樹氏が報告するほか、ソウル大

学のウン・ギス氏が養子と婚姻の分析を通して韓国家族への儒教の影響を論じる。

本大会では、上記シンポジウムのほか、フランスから三人の著名な家族史研究者をお迎えして、比較家族史日仏シンポジウムの開催を企画している。上記のフオーブ・シャムウ氏はアンシャンレジム期の寡婦の地位について比較の視点を人れて報告する。ユニークな理論家として知られるアラン・テスタール氏は婚資と嫁資の諸形態について、この領域の第一人者ジェラルド・デリル氏はヨーロッパにおける同盟結婚+婚姻のシステムと互酬性について論じる。寡婦の地位は持参財の有無と関係するので、この報告は相互に深く関連している。なお、この招聘は日仏会館との協力により可能となった。このように本大会は、フランスから三人、韓国から一人のゲストをお迎えする国際的な大会で、比較家族史学会の名にまさにふさわしいものとなる。シンポジウム「歴史人口学と家族史」第二部と比較家族史日仏シンポジウムには、フランス語の同時通訳をお願いしている。なお、懇親会は京都大学百周年を記念して改装を終えた時計台記念館のフレンチレストランで予定しているが、ウン・ギス先生のお連れ合いでオペラ歌手のフ・ミキユン氏が歌を披露してくださいとのことなので、こちらもお楽しみにご参加いただきたい。

#### 参考文献

速水融編「近代移行期の人口と歴史」近代移

行期の家族と歴史」ミネルヴァ書房

速水融・鬼頭宏・友部謙一編『歴史人口学のフ

ロンティア』東洋経済新報社

速水融編『歴史人口学と家族史』藤原書店

Bengtsson et al. ed. *Life Under Pressure*, The

MIT Press.

アラン・テスタール『新不平等起源論——狩猟

採集民の民族学』法政大学出版会

### ■事務局からの連絡

#### 1 会費納入と役員選挙資格

年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。今回は会費未納分のある方に振込み用紙を同封しております。住所ラベルの右下の既納年度(平成一六年九月二五日現在)が更新してあります。同日以降の振込、および行き違いの節はご宥恕ください。

なお、学校法人名で振り込まれるときは必ず通信欄に会員氏名をお書きください。

#### 2 会費未納と役員選挙・退会

来年は役員選挙の年です。前年(二〇〇三年)度分未納の方は選挙権がありませんので(規約第四条一項)、念のため申し添えます。

また、会の規約第一三条三項によれば、会費を三年間滞納したものは退会とみなすとありますが、過日の理事会でその旨を伝えて、再度督促した上で退会の扱いにすることになりました。該当する方で会員継続を希望する方はぜひ納入ください。

#### 3 学会関連書籍の購入について

これまでたびたびお願い申し上げましたが、現下の出版状況から、とくに会員及び会員の所属各大学図書館での学会関連書籍購入方につき、特段のご協力をお願いします。

『シリーズ比較家族』は早稲田大学出版部、『事典家族』は弘文堂、『家族——世紀を超えて』は日本経済評論社にご注文ください。ほかの書籍を含めて二割引で購入できます。

早稲田大学出版部(担当 新井)

電話 03-32203115 51

FAX 03-32207104 06

弘文堂(担当 浦辻)

電話 03-32294170 03

FAX 03-32294170 34

日本経済評論社(担当 谷口)

電話 03-32301166 1

FAX 03-32265129 93

#### 4 『比較家族史研究』バックナンバーについて

『比較家族史研究』の既刊分の総目次はHPに掲載予定ですが、既刊分13号までは一冊五〇〇円に値下げして販売しております。在庫処分にご協力ください。

なお、創刊号から4号までは在庫がありません。購入希望の方は、学会事務局へご連絡下さい。

#### 5 事務局連絡先

〒一〇一八四二五 東京都千代田区神田神

保町三の八 専修大学法学部 高木侃研究室  
気付 比較家族史学会

電話 03-32651937 4(直通)

FAX 03-32651629 7

e-mail

### ■理事会議事録

日時 二〇〇四年六月四日(金)

出席者数 三七名(委任状を含む)

#### 1 新入会員の承認

新入会員三名(別項参照)

#### 2 次回・次々回大会について

次回は京都大学(ご案内の通り)で準備が進捗しているが、次々回については、三校が候補に上がっているが、今後調整の上、早期に会場とテーマを決めることになった。

#### 3 『シリーズ比較家族史』準備状況と企画

研究大会での報告・編集については、編集委員会と理事会で、目次、編集方針を詰めて、最終的に刊行についての諸否を決定することを再確認し、その執筆要項等について、意見交換がなされた。また各巻の進捗状況の報告あり。

#### 4 会計報告

次頁の通り、報告し、承認される。

#### 5 学術会議関連事項

担当理事から学術会議の現状と問題点、すなわち十九期でこれまでとは性格を異にする会議となること等についての報告あり。

## ■ 新入会員

平井進 (小樽商科大学・西洋史・西洋経済史)

新村拓 (北里大学・日本医療社会史)

北村陽子 (名古屋大学院生・西洋史)

## ■ 学会HPアドレス

<http://www.socni.ac.jp/jsch/index.html>

## ■ 会員著書・受贈著書

(単行本・二〇〇四年刊のもの)

婚差会編『非婚の親と婚外子』青木書店、

一九〇〇円＋税

青柳和身著『フェミニズムと経済学』

御茶ノ水書房、六六〇〇円＋税

野村育世著『仏教と女の精神史』吉川弘文館、

二〇〇〇円＋税

## ■ 所属・住所変更等

紙幅の関係と名簿作成時期の到来とで、今回は割愛させていただきました。

## 比較家族歴史学会 2003年度会計報告 (一般会計)

収入の部	2003年度	2002年度	増減
前年度繰越金	1,902,467	1,647,758	254,709
会費	1,517,700	1,406,000	111,700
年報販売	226,528	36,120	190,408
著作権料〇1	82,000	0	82,000
大学補助	0	0	0
印税	0	60,602	-60,602
利子	59	113	-54
収入合計	3,728,754	3,150,593	578,161
支出合計	1,214,153	1,248,126	-33,973
次年度繰越金〇2	2,514,601	1,902,467	612,134

## 内訳

みずほ残高  
郵便貯金残高

みずほ残高	889,649
郵便貯金残高	1,624,952
	2,514,601

## 特別会計

前年度繰越金	3,983,251	
郵便貯金・A	2,300,000	定期
郵便貯金・B	1,683,251	
利子	68	
次年度繰越金	3,983,319	

## 内訳

郵便貯金・A  
郵便貯金・B

郵便貯金・A	2,300,000	定期
郵便貯金・B	1,683,319	

支出の部	2003年度	2002年度	増減
大会運営費	150,000	150,000	0
印刷費			
封筒	35,400	0	35,400
会報*1	40,000	102,000	-62,000
年報*2	503,654	0	503,654
その他	9,000	0	9,000
名簿*3	0	183,400	-183,400
送料	212,285	510,907	-298,622
発送事務費	76,400	125,000	-48,600
事務関係費	22,459	28,573	-6,114
シリーズ編集費	0	0	0
振込手数料*4	1,705	21,655	-19,950
委託費*5			
名簿管理	30,000	30,000	0
文献整理*6	60,000	0	60,000
HP作成	50,000	0	50,000
年報関連費*7	0	96,591	-96,591
学術会議関連費	0	0	0
役員選挙関連費	0	0	0
理事開催費	23,250	0	23,250
計	1,214,153	1,248,126	-33,973

\*1: 会報42号は次年度会計

\*2: 今年度年報も次年度会計

\*3: 名簿作成は三年毎

\*4: 会費振替手数料は一括会費と差し引きにした

\*5: 一括して費目を設けた

\*6: 2ヵ年分

\*7: 次年度支払い

( )1: 著作権料2ヵ年分

( )2: 年報印刷・その関連は次年度会計

会計監査

山中永之佑 ・ 藤井 正雄